



平成29年2月22日

各位

上場会社名 株式会社 シー・ヴィ・エス・ベイエリア
 代表者 代表取締役社長兼営業本部長 上山 富彦
 (コード番号 2687)
 問合せ先責任者 執行役員管理本部長 鱒淵 晃
 (TEL 043-296-6621)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は最近の業績動向を踏まえ、平成28年10月7日に公表いたしました平成29年2月期(平成28年3月1日～平成29年2月28日)の業績予想につきまして、下記の通り修正いたします。

記

● 業績予想の修正について

平成29年2月期通期連結業績予想数値の修正(平成28年3月1日～平成29年2月28日)

	営業総収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	29,750	100	200	160	32.41
今回修正予想(B)	29,420	△28	135	110	22.28
増減額(B-A)	△330	△128	△65	△50	
増減率(%)	△1.1	—	△32.5	△31.3	
(ご参考)前期実績 (平成28年2月期)	29,193	151	145	198	40.22

平成29年2月期通期個別業績予想数値の修正(平成28年3月1日～平成29年2月28日)

	営業総収入	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	22,940	5	136	170	34.44
今回修正予想(B)	22,800	△58	136	158	32.01
増減額(B-A)	△140	△63	—	△12	
増減率(%)	△0.6	—	—	△7.1	
(ご参考)前期実績 (平成28年2月期)	22,620	37	68	190	38.67

※平成28年9月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、株式併合の影響を考慮しております。

修正の理由

個別業績において、主力事業であるコンビニエンス・ストア事業において、昨秋以降大手各チェーンの既存店客数が前年を下回る状況のもと、複数の当社主力店舗の近隣及び入居オフィスビルのテナントが再開発や移転のため転出した影響などにより、売上が計画を下回る見込みであることや、ホテル事業においても、訪日外国人観光客数は引き続き増加基調にあるものの、東京都心部におけるホテルの稼働率や客室単価が弱含む傾向を見せるなか、当社が運営するユニット型ホテルの稼働状況は、外国人旅行者の宿泊に向けたSNSや動画共有サービス、外国人旅行者向けの観光サイトなどを通じた広告宣伝を強化していることで、年明け以降は前年と比較し大幅な伸長傾向にあるものの下期の想定稼働率までは届かなかったことなどから、営業総収入は予想を小幅ながら下回る見込みです。

そのため、営業利益は、営業総収入が減少したことを受け営業総利益が計画を下回ったことから、58百万円の営業損失となる見込みです。なお、株価水準が当初の見込みより安定した水準にあることから有価証券運用益が増加していることや、不動産管理費用が低減していることなどにより、経常利益は1億36百万円、当期純利益は1億58百万円となる見込みです。

また、連結業績につきましても、個別業績予想の修正に加えて、マンションフロントサービス事業において、主力のフロント受託売上高は前年比、予算比共に順調に推移しているものの、付帯及び新サービスの一部が計画に届かないことから、営業総収入が想定を下回る見込みです。

そのため、個別業績同様、営業総収入が減少することを受け営業総利益が計画を下回るほか、昨秋に地域に密着した組織運営を目指して実施した会社分割に伴う諸経費や、事業所の拡充費用などが期初計画を超過している影響により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益について、修正を行うものです。

なお、ホテル事業につきましては、ユニット型ホテル施設の早期収益化に努めており、認知度の向上や事業に対するご理解をより一層高めていただくことを目的として、「株主優待制度の導入に関するお知らせ」を本日別途開示しております。

(注)上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上